

船舶事故等調査報告書

平成27年11月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2015広第85号
事故等種類	衝突
発生日時	平成27年6月28日 09時40分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市上水島 ^{かみみず} 東方沖 水島港西1号防波堤灯台から真方位228°1,100m付近 (概位 北緯34°27.72′ 東経133°43.48′)
事故等調査の経過	平成27年7月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート ^{しょうじん} 昇尽丸、5トン未満（長さ5.63m） 271-26972岡山、個人所有 B プレジャーボート ^{なかせんどう} 中仙道丸、5トン未満（長さ6.34m） 280-31062岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 B 船長B、二級小型船舶操縦士
死傷者等	A なし B 軽傷 1人（同乗者B ₁ ）
損傷	A 右舷船首部外板に擦過傷 B 右舷船首部外板に亀裂、右舷操舵室前面壁及び右舷船首ブルワークに擦過傷、右舷灯が脱落
事故等の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、上水島東方沖の釣り場で漂流して流し釣りをを行い、圧流されるたびに潮上りを繰り返し、潮上りのために機関を回転数毎分2,500にかけ、手動操舵により西北西進中、餌箱が足元に落ちたので拾おうとして前かがみになって下を向いた姿勢で航行していたところ、平成27年6月28日09時40分ごろ、その右舷船首部とB船の右舷船首部とが衝突した。 船長Aは、海上保安庁に本事故を通報した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、知人2人を乗せ、上水島東方沖の釣り場で釣りをを行いながら漂流中、船長Bが、右舷正横方約150mの所にB船に向けて接近するA船を初めて認めたが、A船が近くまで接近したらB船を避けると思って見ていたところ、避航する様子もなく接近するので危険を感じ、立ち上がって両手を振った後、機関を後進にかけたものの間に合わず、A船と衝突した。 B船の同乗者のうち1人（以下「同乗者B ₁ 」という。）は、衝突の衝撃で転倒した。 A船及びB船は、共に自力で航行し、倉敷市水島港内の係留場所に

	<p>それぞれ帰港した。</p> <p>同乗者B₁は、帰港後、腰部打撲症及び右足挫創と診断された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期</p> <p>本事故当時、本事故発生場所付近に東南東方への潮流があった。</p>
その他の事項	<p>船長Aは、衝突するまでB船の存在に全く気付いていなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>A あり、B あり</p> <p>A なし、B なし</p> <p>A なし、B なし</p> <p>A船は、上水島東方沖の釣り場において、潮上りの目的で西北西進中、船長Aが、足元に落ちた餌箱を拾っていて見張りを行っていなかったことから、前路で漂泊していたB船に気付かずに航行し、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、上水島東方沖の釣り場において、釣りをを行いながら漂泊中、船長Bが、右舷正横方約150mの所に接近するA船を初めて認めた際、A船がいずれB船を避けるものと思い、漂泊を続けていたことから、A船が避航せずに接近するので危険を感じ、機関を後進にかけたものの、間に合わずA船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、上水島東方沖の釣り場において、A船が西北西進中、B船が漂泊中、船長Aが足元に落ちた餌箱を拾っていて見張りを行っておらず、また、船長Bが、A船がいずれB船を避けるものと思い、漂泊を続けていたため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時適切な見張りを行うこと。